

# 環境保全型農業を推進し、 遊休農地を解消しよう

～学校給食への食材提供の取り組み～

松川町・松川町農業委員会  
ゆうきの里を育てよう連絡協議会

1

令和6年1月15日 令和5年度オーガニックビレッジ全国集会

## 松川町長 北沢秀公

～ 松川愛を大切に ～

松川町では町内の飲食店をよく利用し、自然と多様なネットワークが生まれる町。また地域や団体において、様々な地域づくりや活動が行われ、地元を愛する面白い人がたくさん。町が住民の黒子となり、その活動を支援することで、活発なまちづくりができると思っています。

陸の孤島といわれるこの地域で育つ子供たちが、どこにいてもものびのびと活躍できる環境づくり。町内外の経験豊富な方との交流や、海外の方との交流が当たり前にある町にしたい。

外に出た子どもたちがある時期になったら、やっぱり松川町に帰りたいなと思ってもらえる町にしたい。それぞれが積み上げてきた経験や知識が松川町のチカラにつながるように。

「松川町って面白い、いいよね、こんな環境で子育てしたい」と思ってもらえるまちづくりをしています。



令和5年4月

初登庁・初就任（51歳）

昭和46年 松川町郷原生まれ・原田在住 現在52歳

県立飯田風越高等学校卒業

平成2年より32年間役場の職員として勤務。最も長く在籍した町営の「信州まつかわ温泉清流苑」では、38歳から支配人を令和3年に退職するまでの間務める。

2児の父 趣味はキャンプやスポーツ観戦



令和4年 8/8~10 九州視察研修  
松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会

3



宮崎県綾町：  
薬膳茶防オーガニックごうだ  
綾町役場 有機農業振興係



大分県臼杵市：  
臼杵市役所 有機農業推進室  
臼杵市土づくりセンター



長崎県佐世保市：  
菌ちゃんファーム

みどりの食料システム戦略推進交付金 有機農業産地づくり推進緊急対策事業

# 松川町のデータ

4



東京 (TOKYO) まで高速バスで3時間30分  
名古屋 (NAGOYA) まで高速バスで2時間

松川町は、長野県南部の下伊那郡の最北、伊那谷のほぼ中央に位置し、東西約21km、南北約6kmで、総面積72.79km<sup>2</sup>。

役場の位置	
海拔	542.33m
緯度	35° 35' 50"
経度	137° 54' 35"
地番号	元大島3823

# 松川町のデータ

5

中央道周辺  
果樹園地帯



長野県

松川町



天竜川流域  
水田地帯



松川インター

天竜川

松川町

中央道

国道153号線

町の中央を天竜川が北から南へ流れ、川の東西に段丘が形成され、東側には工業団地と水田地帯が、傾斜地では、水稻、畜産、小梅の栽培などが行われている。西側は、水田地帯から住宅地、商店街、工業団地が開け、梨、りんごなどの果樹栽培が盛ん。

## 松川町のデータ

総人口	12,666人	*1⇒	12,318人	① ⇒	12,231人	⑤
世帯数	4,442世帯	*1⇒	4,470世帯	① ⇒	4,484世帯	⑤
農業就業人口	1,459人	*2⇒	1,066人	②		
農地面積	1,384ha	*3⇒	1,321ha	③		
農振農用地	943ha	*4⇒	942ha	④		
遊休農地面積	235.5ha	*3⇒	239ha	③ ⇒	170ha	⑥
経営農地面積	748ha	*2⇒	625ha	②		

\*1松川町調査数字(2019年10月1日現在) ①(2022年6月1日現在) ⑤(2023.4.1現在)

\*2 農林業センサス(2015年) ②(2020年)

\*3 松川町農業委員会による利用状況調査(2018年11月) ③(2021年11月) ⑥(2022年11月)

\*4 松川町集計(2019年2月7日許可最終) ④(2021年9月8日許可最終)

## ① 松川町の農業・農地の現状

# 遊休農地対策として

- 新規就農者の受け入れ支援     ～果樹研修制度～
- 新規法人参入の支援     9件の農地所有適格法人の内、  
6件が果樹栽培を中心に行っている
- 労働力の補完     シルバー人材センター、ワーキングホリデー
- 農地の集積・集約化
- 農地の斡旋、マッチングによる流動化  
農地相談員を設置し、情報収集及び売買、賃貸借の支援



## 松川町オーガニックビレッジ宣言

大切なのは人



- 町民の皆さんと一緒に環境保全型農業への取り組みをすすめます。
- 持続可能な農業、持続可能な暮らしを目指し、町の活力・魅力をUPします。
- ゆうきの里としての成長とともに、子どもたちの健やかな成長を目指します。

令和5年3月6日

松川町では、世界的な新型コロナウイルスによる影響、また異常気象での農作物への自然災害など、自然環境を強く意識する状況下において、令和元年から、遊休農地を活かす取り組みとして、環境保全型農業（農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業）に取り組んでいます。

環境保全型農業の取り組みとしては、ここ数年で取り組んできた学校給食への※1有機食材の提供と、100年以上、産地として続く「くだものの里」の果樹栽培でも、長年取り組みが行われてきています。

近年、科学的にも解明されてきた栽培技術や育土、植物の成長等について、さらなる探求を高め、松川町の農産物のブランド化と、担い手の育成、暮らしやすい地域づくりを進めていきます。

※1有機農産物とは、農薬や化学肥料を使わず、遺伝子組み換え技術を使用せず、環境への負荷をできる限り低減した農産物で有機JAS規格を取得したものですが、学校給食への提供する農産物すべてが有機JAS規格を取得しているわけではありませんが、ここではあえて有機農産物と表記しています。





## 地域に内在する資源・・・遊休農地は地域の宝！

大切なのは人

松川町第5次総合計画では

1. 持続可能な地域づくり、
2. 4つのキーワード

(自治・学び・地域に内在する資源・総合的な地域理解)を掲げ、町づくりを進める。

遊休農地を厄介者にせず、活かしてこそ、持続可能な地域づくり。

将来に続ける一つの取り組みとして、活動を開始。

「非農家及び保護者等による有機農業の推進を行い、遊休農地の解消につなげるとともに、学校給食への提供等、地産地消の促進を目指します」



アドバイザー吉田太郎氏

令和2年12月

松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会 発足

松川町の豊かな自然や気候風土の保全・再生のために、環境保全型農業を推進するとともに、松川町産有機食材を活用した子どもたちの食事（給食）を推進し、もって松川町の農業振興と子どもたちの健康で豊かな食生活の実現に寄与することを目的とする。



生産者、栄養士、学校関係者、商工会、JA、県、町等が集まり、話し合いが始まりました

# 野菜、お米の有機栽培研修会の実施



コンジーン

太陽熱マルチをした後に播種。太陽熱マルチは夏に効果あり（春は温度が低い）



ジャガ  
任

リンゴの絞りカスをたい肥に利用。



タマネギ

育土のため、緑肥を育て、漉き込み。漉き込んだ後、太陽熱マルチを実施



おメ

水管理、土引き圃場の水平を保つ。最初に雑草の発芽を促し、出たところで、代掻きをして田植えを行う。



社

インセクティ-プラントとしてのマリーゴールド・ソルゴー。ネギにつく虫の天敵の住処とする。